



7 研修第 11 号

(令和 7 年 10 月)

発行: 宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス: nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



令和 7 年度 乳幼児教育・保育協働研修通信



テーマ
「0～1 歳ごろの
子どもの発達について」

令和 7 年 9 月 2 日(火)

第 11 回研修会(発達・子育て支援分野)
を開催しました。

28 名の先生方(保育所(園)4 名・幼稚園 4 名・認定こども園 11 名・小学校 1 名・療育施設 8 名)と 15 名の関係部署の職員等と一緒に学び合いました。

※ この研修通信は、園内の体制等でご参加いただけなかった皆さまにも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。



講義 「0～1 歳ごろの子どもの発達について」

講師 京都府立大学公共政策学部学部長
服部 敬子 教授





講演の中で、心に残ったこと

(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

環境

- 子どもの発達には飛躍的な移行期がある。子どものその力を発揮できる環境を整えていくことがとても大切だと学んだ。適切な環境でなければ、こどもの興味関心は引き出せないのも**一人一人の子どもに合った環境を整えていく**ことを頑張っていきたいと感じた。環境は大事だが人との関わり、**安心できる場所(人)になる**ことも大切である。

「間」のある関わり

- おもちゃを渡すという1つの動作にしても、ただおもちゃの名前を言って渡すのではなく、音で興味を持たせ、目で更に興味を持ってもらい間のある関わりをするということ子どもを促す1つの足がかりになるということが大切だと知り、**普段の何気ない関わり方も子どもにとっては大切な関わり**だと気づくことができた。

- 「間」の大切さについて知ることができた。自分の担当しているクラスでも“いないいないばあ!”が好きで、ためるとためた分だけよく笑っている姿があった。**これがイメージをしていることだ**ということを知ることができた。

“新しい発達の原動力”

- “誰かに教わってできることではない。**その子の中の内部から湧き上がってくるエネルギー**”の言葉にハッとした。一人ひとり、そのタイミングも違うでしょうが、すぐに結果を求めず**“待つ”姿勢**を大切にしたいと思いました。

「人」・「こと」

- 『**見たい、まねたい「人」+やってみたい「こと」が必要**』ということ

利き手

- 利き手について無理やり変えさせることが利き手が決まることを遅らせたり、**言葉の獲得に密接な関係**があるということ

噛む力

- **みじん切りは噛む力がなくなり、丸のみ**をすることをみんなに知らせたい。誤嚥を気にして園ではみじん切りにしがちだ。

発達過程をしっかりと見てその子に合ったあそび・身体づくりをもっとしていきたい。

0、1歳の発達をしっかりと把握することで幼児期の発達の理解につながること

利き手について保護者の気持ちに寄り添っていたが言葉の獲得につながっていることを知らせたい。

自我を大切にしたい。自分で選んだり、決める。自己決定を積み重ねていける環境をさらに整えたい。

その子が持っているエネルギーや葛藤を汲みとりながらその時々に合ったあそびや環境づくりをしていきたい。

子どもたちが「見たい、真似たい、やってみたい」と思うしかけづくりを大切にしていきたい。

子どもたちと関わる際に関わり方一つ一つが大切だという意識を持ち、子ども一人ひとりに合った保育をしていきたい。特に食べる時の介助で上唇に食材を当てるのはやめようと思

園・校で
活かしたいこと



間を持った関わり。1つの物を渡す時もまずは目の前に持ってきて気付けるようにする。

0歳児のスプーンの入
れ方、食べさせ方で噛む力を育てるためにも
う一度みんなで食べ
させ方、スプーンの使
い方を見直したい。

発達に応じて人とつながれるように援助したり、思いを十分に受け止めたりして、一つひとつの発達段階にいる子どもたちの内面や成長を大切に支えていきたい。

乳児は手助けをすることが多いので、援助してしまいがちだが、見守りつつ自分で動けるようにしていくことも大事だと感じた。

子どもの細部まで丁寧に関わる
保育につなげた
い。

子どもの成長に合わせたおもちゃを用意し、大人から何かをしかけるのではなく、子どもの中から育っている力を待ち、その時間を大切にしていきたいと感じた。

保健師や発達相談員等は、こんなことを
感じたり考えたりしました。

赤ちゃんの健やかな発達のためには、いかに**赤ちゃんの自由を奪わない環境**が
大切かが、心に残った。いろいろ便利な育児グッズのはずが、赤ちゃんの力を奪っていること
を知れてよかった。

4ヶ月半ばの子に対して、ガラガラを渡すという1つの行為でも聴覚・視覚・触覚な
ど様々な感覚を意識して「**間**」のある**関わり**をするよう意識したいと思いまし

エネルギーup の時期が印象的だった。やりにくさを感じることだが、子どもの成長発達を感じ
る時期。子育てをする**保護者への支援として発達を知ることで関わりやすく
なる**ことが大いにあると思う。教室の中で個別支援の中で伝えていきたいと思った。

何らかの障害がはっきり出てきてからのフォローでは遅い。**発達上のもつれを早くか
ら見つけて関わっていく**ことが大切という先生の言葉が大変心に残った。子どもが発
するエネルギーを見逃すことなく関わることの大切さを再確認した。

- ・発達の日々の健診の時期に何をポイントに見ていくか、又、それに必要な育児環境を整え
ていけるように育児サポートをしていくことが大変重要である。
- ・それぞれの発達の日々で出てくる原動力をいかにして出せるようにしていくことが大切な
支援であるか。
- ・利き手が決まることが言葉の発達・獲得に密接につながっている。
- ・子どもの**自らの力を最大限に出せるように関わっていく**ことが重要

健診、相談場面で紹介したい。

時間軸に沿った発達の見通しを伝えることができるように今後意識したい。

乳幼児の発達をしっかりと再確認し、健診時保護者からの相談に役立てたい。

3ヶ月健診で本日の講義を活かしたい。先生の話聞きながら健診で伝えたい
ことがたくさんある。講義を聞きながら赤ちゃんの姿が目につく。

今後、乳幼児健診で発達のポイントを押さえて支援をしていきたい。